

平成30年

目黒区教育委員会

第1回定例会会議録

(平成30年1月9日開催)

第1回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成30年1月9日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	尾崎 富雄
	教育委員会教育長職務代行者	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会委員	後藤 幸子
	教育委員会委員	櫻井 道雄

出席職員	教育次長	野口 晃
	教育政策課長	山野井 司
	学校統合推進課長	増田 武
	学校運営課長	村上 隆章
	学校施設計画課長	照井 美奈子
	教育指導課長	田中 浩
	教育支援課長	酒井 宏
	統括指導主事	寺尾 千英
	統括指導主事	古舘 秀樹
	生涯学習課長	馬場 和昭
	八雲中央図書館長	石松 千明

書記		小野塚 幸隆
		山東 隆博

(議事日程)

- | | | |
|------|------|--------------------------------------|
| 日程第1 | 報告事項 | 平成30年度組織改正(第1次)及び職員数内
内示について |
| 日程第2 | 報告事項 | 平成30年度目黒区一般会計当初予算原案につ
いて |
| 日程第3 | 報告事項 | 目黒区教育・保育に係る利用者負担額の見直し
案について |
| 日程第4 | 報告事項 | 平成29年度いじめ問題を考えるめぐろ子ども
会議の実施結果について |
| 日程第5 | 報告事項 | 平成30年成人の日のつどい実施結果について |

資料配布

- ・学校統合推進課だより(南部・西部地区版)No. 24

(午前9時30分開会)

- 教育長 第1回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。本日の欠席委員、欠席職員はございません。署名委員は後藤委員です。
- 昨日の成人の日のつどいは、大変すばらしい式典だったと思っております。関係者の皆様方には、お礼を申し上げたいと思えます。この一年間どうぞよろしく願いいたします。
- それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 平成30年度組織改正(第1次)及び職員数内内示について)

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等がございますか。
- 特にないようですのでこの報告を受けました。
- 次に日程第2を議題とします。

(日程第2 平成30年度目黒区一般会計当初予算原案について)

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等がございますか。
- 教育長 資料としては、なかなかわかりにくいところがあると思いますので、最終的に予算が確定した段階で、学校教育プランに沿った見やすいような形で報告していただきたいと思えます。
- 教育長 その他ご質問等がございますか。
- 特にないようですのでこの報告を受けました。
- 次に日程第3を議題とします。

(日程第3 目黒区教育・保育に係る利用者負担額の見直し(案)について)

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等がございますか。
- 教育長 今回の引き上げ額、それから引き上げの時期、それから引き上げの考え方については適正だと思っております。
- 保育園の保育料と同額にしていくということの法的根拠あるいは他の根拠若しくは考え方について、どういう考えになっているのでしょうか。

23区の中で、隣接区のこども園の中時間・長時間の保育料がどうなっていて、保育園の保育料と同額にしているのでしょうか。

それから3点目ですけれども、今回の資料で保育園の保護者の負担割合、あるいは運営費の行政の負担割合等が出ておりますけれども、こども園だけを取り出した負担割合が出ていますか。

○説明員

まず、保育園保育料とこども園中時間・長時間の保育料との横引きの考え方ですけれども、子ども・子育て支援新制度の中では、保育園の保育料、いわゆる2号認定、3号認定になりますが、そのままこども園の中時間・長時間と同額に設定されます。当区では保育料を定める条例により既に一本化されてございまして、保育園とこども園の中時間・長時間は同じ額を適用するという形になっています。

これは2点目のご質問のお答えにもなりますけれども、他区の状況、近隣区でいえば品川区、世田谷区、渋谷区につきましては、保育園とこども園中時間・長時間の保育料につきましても同額という形で条例を定めてございます。

それから3点目につきましては、先ほどのようなドーナツグラフを仮につくったときに、いわゆる保育士の給料と幼稚園教諭の給料との差が出てきます。ですので、こちらについては明確な金額、割合については現在まだ出しておりませんので、至急作成したいと思います。

○委員

資料1の2番で、待機児童数の推移という表がありますが、29年度は待機児童数が一気に倍増しています。0歳から5歳までの人口の伸び率に比べて、この伸びが大きいのですけれども、これは働く方の割合が増えたという認識でしょうか。

○説明員

待機児童数の算定に当たっては、基本的に厚生労働省が基準を示して、各自治体がそれに基づいて数字を公表しています。しかし、自治体によって捉え方が違っているものがあって、例えば育児休業中で待機している人をどう捉えるかであるとか、あるいは認可外に入っている人をどう捉えるかなど、若干違っていました。そこで、厚生労働省が平成29年度に新定義という形で定義の仕方を改めました。

このことにより、新たな定義に基づいて人数が増えているように見えるということです。

○委員

では、実際にこれだけ人数が増えたということではなく、いわゆる待機児童として認定される人の人数という理解でよろしいで

しょうか。

○説明員 そのとおりです。実際には、認可保育所を申し込んで入れなかった方の人数で、それ以前に既に諦めているような方たちも含めれば、潜在的な待機児童数はさらに多い状況です。

○教育長 若干補足しますと、29年度は、国が保育所の待機児童の定義という新定義を出しました。29年度においては、旧定義を使うか新定義を使うかは各自治体の判断ですが、30年度からは一斉に新定義に移行するという状況です。

○委員 時代の流れとして、子どもを大切にしようという流れが出てきていて、今後大きい流れになっていくと思います。今回の説明は経済的なことでよくわかるのですけれども、これを区民へどう説明していくのでしょうか。

○説明員 在園児の保護者、それから新たに保育園の入園を申し込んでいて、これから入園が決定される方々の保護者に対しては当然細かい説明をしていきます。保育課ではわかりやすい資料、本来、国基準が定めている保育料を区がここまでカバーしている、あるいはこの待機児童対策で保育園の建築にこれだけの経費がかかっている区の財政を圧迫していること、ご家庭で保育をされていらっしゃる方には、東京都では新たにベビーシッター等を考えているようですけれども、まだ予算化の段階ですが、一切補助がないような中で、そういった格差についても説明しております。

例えば資料2の2ページ、2番の園児1人当たりの経費の推移、これは公立、私立を合わせた経費ですけれども、0歳児をごらんいただくと、0歳児1人の保育のために月額で28年度決算で39万9,000円余がかかっている。これは公立だけにすると40万円を超えております。1カ月当たりそれだけの税額が投入されている。そういったことも説明しながら、もちろん皆さん納税者ですけれども、受益者負担ということでご理解を求めていくという形になります。

○委員 基本的によくわかりますが、子どもを大切にしているということをもう一つの柱として説明の中に入れていくといいのではないのでしょうか。

○説明員 今いただいたご意見については保育課に伝えて、きちんと保護者に伝わるように説明していきたいと思います。

○教育長 その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

次に日程第4を議題とします。

(日程第4 平成29年度いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議の実施結果について)

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等はございますか。
- 委員 今年度から代表の全児童が参加するというので、教職員、教育委員会の力があって、こういう形になったことはよかったと思っています。

参観をしまして、気になった点を申し上げますと、小学生が事前に用意したものを発表しただけのものを、中学生同士でまとめて、それを全体発表に持っていくという形で、主体的で自発的な話し合いというところを促すところが少なかったというのが感想です。

小中連携という意味をもう少し考えていかなければいけないと思いました。

いじめを考えるだけなら、小学校の中だけでできると思います。わざわざ中学校に集まって、中学生と意見を交流するということにもう少し力を注いでほしいと思いますし、中学生の進め方についても、事前の準備ですとか、指導があってもよかったかと思えます。ファシリテーションする力に差があって、小学生の意見を引き出せていないところもたくさん見受けられました。

中学生にとってはいい経験になると思いますので、会議を引っ張るということは、なかなか経験できることではないので、そのあたりを少し考えていただきたいと思います。

あと、指導主事の方が全ての校区に来ていただけていました。校長先生からもうまくいきました、すごく中学生が頑張っていましたという意見も聞きました。そのあたり指導主事の意見も伺いたいと思います。

- 説明員 主体的・自発的な活動がさらに増えるといいということに関しましては、ご指摘のとおり、子どもたちが本音で話し合える活動、取り組みにしたいということで、目黒子どもフォーラムから改善してきたところがございますので、さらに主体的で自発的な活動になるような取り組みに改善をしていきたいと思っております。

それから2つ目、小中連携の意味ということで、発達段階の上

の子どもたちに直に会って意見を聞くことによって、立派な中学生になりたいというような、そういった取り組みになるべきだと思っております。これは主体的・自発的な活動というところにかかってくると思っております。

ただ、ご指摘のとおり、ファシリテートする力は、一朝一夕にできるものではなく、小学校の低学年の段階から学級会活動ですか、あるいは授業の中で自分たちの意見をまとめるといった活動を通して、育っていくものだと思っております。

そういった意味では、今回の学習指導要領の改訂では主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、子どもたちがしっかりと自分の考えを持って話し合うような活動を授業の中で取り組まれますので、子どもたちも主体的・自発的な活動ができるように育っていくのではないかなと期待しています。ただ、短期的にどのようなことができるかということは、改めて考えていかなければいけないと思っております。

指導主事がそれぞれ担当する学校の子ども会議に参加していて、指導主事からも目黒区での子ども条例の取り組み等から、子どもたちが主体的にいじめをしてはならないということの話をさせていただいているところです。そういった指導主事が参加して、それぞれの分科会の調査をさせていただいて、その報告をもとに、本日私のほうから報告させていただいております。

○委員

ファシリテートする力は短期的にはつかないというところはもちろんですけども、例えばファシリテーションしているところを見せるとか、少し工夫をしていただきたいと思っております。

あと、会議がうまくいったところのケースをぜひ次年度参考にしていただいて、来年度はレベルアップした会議になることを期待します。

○説明員

子どもたちが意見をまとめていく力につきましては、短期的にどのようなことができるのか、事務局でもしっかりと研究させていただいて、来年度の実施に生かしていきたいと思っております。

また、うまくいったケースにつきましては、今後、校長会でも報告させていただき、紹介してまいりたいと思っております。

○委員

開催時期の問題で、寒い時期である11月、12月よりも4月か5月、運動会があるタイミングに合わせてイベントができればと考えております。

いじめ問題は1年中起こることでありまして、8月の夏休み明

けにもいろいろ問題が起こりますので、11月、12月は間が空いているような印象を受けてしまいます。次回以降検討いただければと思います。

○教育長

A3版の参考資料で、いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議の欄ですが、7月にいじめ問題を考えるめぐろ子ども会議の取り組みの検証とありますが、PDCAの考え方からいくと、これは実施した後に検証しなくてはいけないわけです。各学校でいろいろな取り組みとして、DVDを見たり、事前に話し合ったり、場合によっては小中が事前に会って話し合ったような事例もありますけれども、ここは順番を入れかえてもらったほうがいいと思います。これは要望です。

それから、ファシリテーターの要望もありましたけれども、そこにいくレベルの前々段階で、逆に小学生がリードしている場面もありました。ですので中学校、小学校の取り組みも含めて、これだけ準備していますということを入れていただきたいと思えます。

それから100万人の行動宣言ですが、今までの公表の仕方は承知しておりますけれども、これは今後公表はしていかないのか、公表していくのか、どちらでしょうか。

それと傍聴者、参加者の関係では、説明のときに、参加者がいることによって子どもたちの発言が妨げられるということをございませんでしたということをはっきりと説明してもらいたいです。教育指導課で作った資料なので、教育指導課サイドの資料になっていますが、地域教育懇談会についてこの資料に入れられる工夫ができれば、より広がりが見えると思えますがいかがでしょうか。

○説明員

PDCAサイクルにつきましては、ご指摘のとおり変更して、今現在は健全育成推進委員会で検証し、今年度どうしていくかということで行っておりますので、これを今年度からさらに検証ということで資料に入れていくことは可能と思えますので、実際に記載だけではなく、検証作業もしてまいりたいと思えます。

それから2点目の100万人の行動宣言につきましては、NHKが募集して公表するというのを今年度からしておりませんので、本区では各学校で取り組んでいただいて、各学校で掲示等をして、1年間、その行動宣言に従っていただくということをしておりますので、これについても同様の取り組みを来年できるよう

な方向で検討してまいりたいと考えております。

それから参観者につきましては、地域教育懇談会の方々が本当にいじめ問題に関しては関心が高く、支えていただいていると思っておりますので、ご指摘のとおり、この取り組みの中にもしっかりと位置づけていきたいと思っております。

○教育長 NHKの100万人の行動宣言ですけれども、もう実態としてはなくなったという理解だとすれば、NHKという固有名詞を入れることについてどうなのでしょう。これだと引き続きNHKが募集して、テロップで公表しているようなイメージを受けるのですが、いかがでしょうか。

○説明員 今年度、NHKの立場としては、これまでどおり、一旦この取り組みは行いますが、各学校での取り組みにお任せしますということで、行動宣言の様式等はホームページ上で公開しております。各学校で印刷するという事だったのですが、本区はこれを事務局で全て印刷して、児童・生徒に配布するということをさせていただきました。来年度からは、ご指摘のとおり、この名称も含めて、考えていかなければいけないと思っています。

○教育長 その他ご質問等ございますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第5を議題とします。

(日程第5 平成30年成人の日のつどい実施結果について)

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はございますか。

○教育長 昨年の反省として、2階席がうるさかったのですけれども、今年はかつてないほど静かな、静寂な成人式ということで大変スムーズに終わって、大変よかったと思っております。また司会の方も昨年に続いての司会者の方でよかったと思っております。

あえて気になる点を申し上げますけれども、写真撮影サービスですけれども、何回か小ホールにお伺いしたときに、長蛇の列ができていたときは、待ち時間は30分以上だったと思うのですけれども、整理券を配って行ったらどうなのでしょう。

それから、小ホールに入り切れなかった新成人の方が見る大スクリーンと椅子席がそのまま置いてありますけれども、そこがデッドスペースになっていました。例えば整理券をもらった方がそ

こでお座りになっておしゃべりいただくというのも一つの方法だと思いますし、場合によってはスクリーンは使えるわけですから、何か区のPRができないのでしょうか。

○説明員 小ホールで行いました写真撮影ですけれども、2カ所でプロのカメラマンにより実施いたしました。当日、長いときで30分程度の待ち時間がございました。

今回、整理券は発行しておりますが、ご指摘のとおり小ホールの椅子に座るということもできますので、整理券を発行し、どういう形で待機するのがいいかにつきましては、今後、十分検討していきたいと思います。

2点目、ご意見ということですがけれども、小ホールのスクリーンですけれども、式典中は大ホールに入れなかった新成人が小ホールのスクリーンで式典の様子を見ていただく。終わってからは、写真撮影の会場、そしてケーキを提供する会場となります。式典が終わった後にスクリーンそのものについては今現在活用していないという状況ですので、これについては有効な活用があるかどうかにつきましては、今後、十分検証をしていきたいと思います。

以上でございます。

○教育長 その他ご質問等ございますか。

特にないようですのでこの報告を受けました。

〔 資料配布
・学校統合推進課だより（南部・西部地区版）No. 24 〕

○教育長 その他何かございますか。

○説明員 現在、工事を実施しております東山小学校の改築でございますが、本年3月をもって完了となります。

現在はプール棟を建設しておりますが、1階の東山住区センターの落成式と東山小学校の改築工事の完了式を計画してございます。日時は、3月28日水曜日、午前10時から約1時間を予定しております。

詳細な案内等につきましては後日、教育委員の皆様にお配りしたいと考えておりますので、お時間等ございましたら何とぞご臨席を賜りたいと存じます。

○教育長 以上で本日の定例会を閉会します。

(午前10時47分閉会)